

# 5 交通手段から見た人の動き

## 1. 行政区別の鉄道端末手段構成

- 鉄道駅へ行くため、あるいは鉄道駅を降りてからの交通手段（鉄道端末手段）構成を行政区別にみると、中央区・西区では、徒歩の割合が約9割と高くなっています。
- また、東淀川区・鶴見区・平野区では自転車の割合が約2割と、ほかの区と比較して高くなっています。
- 大正区においては、鉄道駅が区の北端に位置しており、区内のバス路線網が充実しているため、バスの割合が約2割と他の区と比較して高くなっています。



図29 行政区別の鉄道端末手段構成比（平成22年）

## 2. 自転車利用トリップの推移

- 自転車利用トリップの推移を性別にみると、平成12年から平成22年にかけて、女性の自転車利用が減少している中で、男性は増加しています。

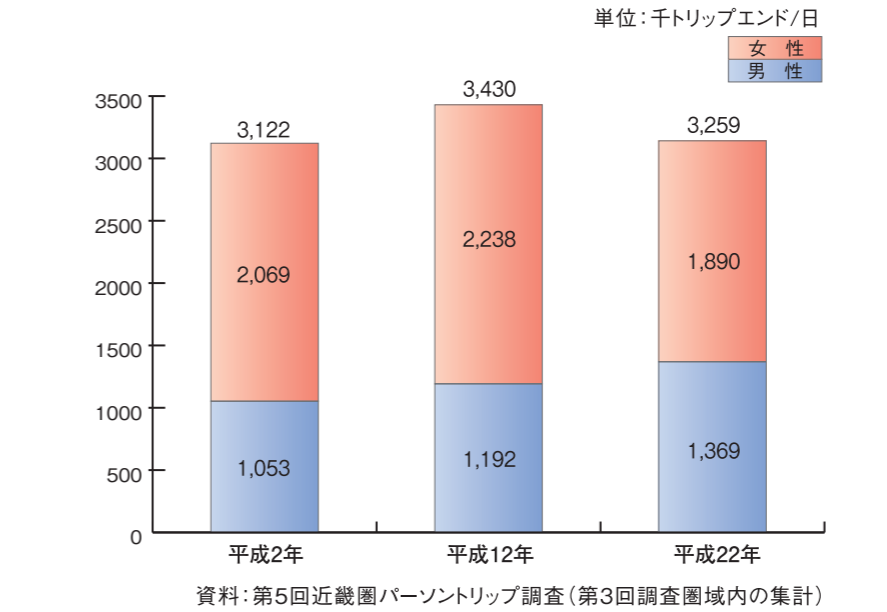
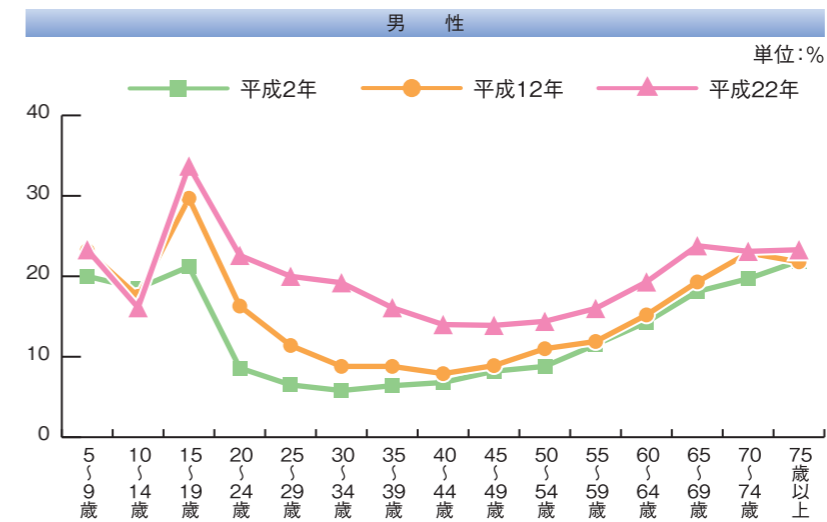
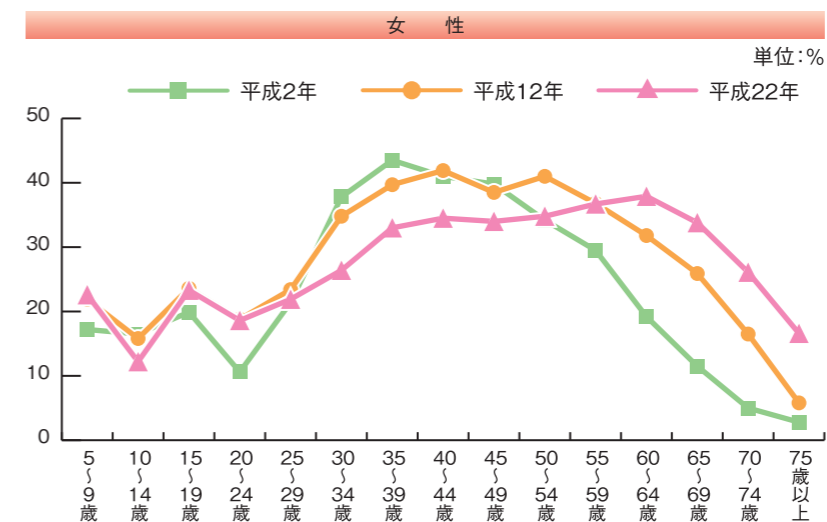


図30 男女別に見た自転車（代表交通手段）の発生集中量の推移（平成2年～平成22年）



- 男性の自転車分担率を年齢階層別にみると、平成12年から平成22年にかけて、20～40歳代の利用が増加していることがわかります。



- 女性の自転車分担率を年齢階層別にみると、平成12年から平成22年にかけて、30～50歳代の利用が減少していることがわかります。

図31 年齢階層別に見た自転車（代表交通手段）分担率の推移（平成2年～平成22年）